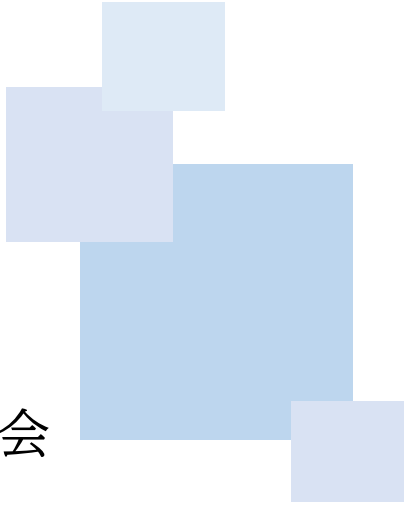
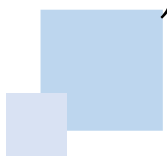


市内の社会教育活動や地域活動の 情報収集・活用の仕組みづくりについて



那珂川市社会教育委員の会

令和4年3月



< 目 次 >

1 はじめに	P.2
2 現状と研究の方針について	P.3
3 具体的施策について		
(1) 情報収集ノートを作成	P.4~9
(2) 情報収集結果と課題	P.10~11
(3) オンラインチャットツールを活用 した情報収集	P.11~12
4 地域情報統括の仕組みづくりについて	P.13~16
5 おわりに	P.17

<資料>

- 那珂川市社会教育委員の会 委員名簿

1 はじめに

- 平成30年度・令和元年度、那珂川市社会教育委員の会では、那珂川市における地域学校協働活動の推進と社会教育委員の関係性について調査・研究を行い、提言書「地域で子どもを守り育てるまちを目指して～那珂川市における地域学校協働活動の推進と社会教育委員の関係性について～」を作成し、教育委員会へ提出した。

- この提言書では、地域と学校が連携・協働し、地域ぐるみで子ども達を育成していく「地域学校協働活動」に関する本市の取り組み状況と効果的な活動の推進を図るための社会教育委員の役割について調査・研究を行った結果、地域・学校・家庭が連携・協働した活動を実施していくためには、那珂川市に地域情報を統括する仕組みが必要であると提言している。

- また、中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育振興方策について(答申)(平成30年12月21日)」(以下「中央審答申」とする。)では、『社会教育が「人づくり」「つながりづくり」という強みを最大限に発揮しつつ、「地域づくり」に大きく貢献しながらその目的を達成することができるよう、今後は、より多くの住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われる社会教育、すなわち、「開かれ、つながる社会教育」へと進化を図る必要がある。』とされている。

- 加えて、中央教育審議会「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 多様な主体の協働と ICT の活用で、つながる生涯学習・社会教育～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～(令和2年9月)」(以下「中央審における議論の整理」とする。)では、学びを通じた地域づくりを進めるにあたっては、『地域の課題やニーズを踏まえ、様々な人や組織と連携・協働しながら学びの活動をコーディネートする中核となる人材の存在が重要である。』とされ、さらに、『学びの活動に様々な人が参加し、活動の輪を広げていくことで、一人ひとりの主体的な学びにつながるとともに、地域や社会の課題解決・活性化にもつながる。』とされている。

- これらのことを踏まえ、本提言書では那珂川市において、より多くの住民の主体的な参加を得た「開かれ、つながる社会教育」の実現のために、研究テーマを「市内の社会教育活動、各団体や学校の地域活動の情報収集・活用の仕組みづくりについて」とし、市内の情報収集・活用の方策について調査・研究を進め、まとめることとした。

2 現状と研究の方針について

- 令和2年度は、研究テーマをもとに全6回の会議(うち1回は書面による実施)を開きテーマに関する協議を重ねた。加えて、令和元年度末から発生した、新型コロナウイルス感染症というパンデミックの発生を受け、各委員が活動する際に感じる地域の課題や社会教育団体の課題についても共有を行った。

- その結果、「新型コロナウイルス感染症の発生により、対面で人と会い辛くなったことにより、地域での関わりが少なくなった」「オンラインでの研修会の実施など、新しい生活様式についていけない高齢者も多くいる」「周りの情報も入ってきにくくなっている」など、新型コロナウイルス感染症への対応により新しい生活様式が登場し、社会環境の変化に対応できる人とできない人との間に格差が生まれ、社会環境の変化に対応できない人の地域における孤立が進んでいるとの課題が挙げられた。

- また、「中央審における議論の整理」においても、『今期中において、新型コロナウイルス感染症に関する対応が発生し、学校教育のみならず社会教育にも大きな影響を与えている。それぞれの場において学びを止めないことの重要性が共有されたとともに、ICT などの新しい技術を活用した学びなど、学びの新たな可能性が示されたところである。一方、ICT 機器を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差(デジタル・ディバイド)の解消も課題となっている。』とされている。

- このように今般の新型コロナウイルス感染症への対応を通して、改めて、だれ一人取り残されず、すべての人がつながりあい、支えあうことのできる社会教育の実現が重要であることが示された。

- そこで我々は、この全ての人がつながりあい、支え合うことのできる社会教育を実現するために、前回の提言内容である、市社会教育委員の会が市内の社会教育関係団体の代表者で構成されているという特徴を生かすことで、効率的に社会教育活動に関する情報収集を行うことができるのではないかという点を踏まえ、社会教育情報をより効果的に収集する方法について検討を行った。

3 具体的施策について

(1) 情報収集ノートの作成

- 各委員が地域情報について円滑に情報収集ができるようにするためには、情報収集する項目を統一した何かしらのツールが必要であると考えた。そこで我々は、各委員が地域人材の情報や地域の困りごとについて情報を収集でき、収集した情報を会の中で共有することで、地域や社会の課題解決や活性化、市民の学びの充実へと繋げることができるように、情報収集ツールである「社会教育委員情報収集ノート(以下、「ノート」という。)」の作成を行うこととした。
- ここでは具体的なノートの内容について説明をしていく。まず表紙については、各委員と多くの人々のつながりができていくことをイメージしたイラストを使用し、下部にはノートの持ち主が分かるように氏名記入欄をもうけた。また、P1には各委員が常に高い意識を持って活動できるように、社会教育委員として活動する際の心得とノートの目的について記載している。(図1)





【図1 ノート表紙及び1ページ】

- 2ページ目から17ページ目では、情報収集の際に使用する「協働マッチングシート(以下、「シート」という。)」を添付している。このシートを活用して、各委員は地域の人や団体から聞き取った内容について記載する。
- シートには「相手の詳細」「得意なジャンル」「その他聞き取った内容」が記載できるようにした。また、このシートは切り離しができるようになっているため、聞き取り相手に直接記入してもらうことも可能である。
- 加えて、シートの下部には、社会教育委員が聞き取った内容を整理し、委員同士で共有しやすいように、人材紹介の欄を設けている。

記入日
年月日

協働マッチングシート



聞き取りメモ 

<相手の詳細>

名前 _____ 所属 _____

連絡先 _____

<得意ジャンル>

スポーツ 歴史 文芸 美術・工芸 音楽 語学
 子育て 趣味・生活文化 情報 健康 その他


<詳細>

(例) ○○で働いていたことがあるので○○なら少し詳しいです！ 等

社会教育委員の _____ が

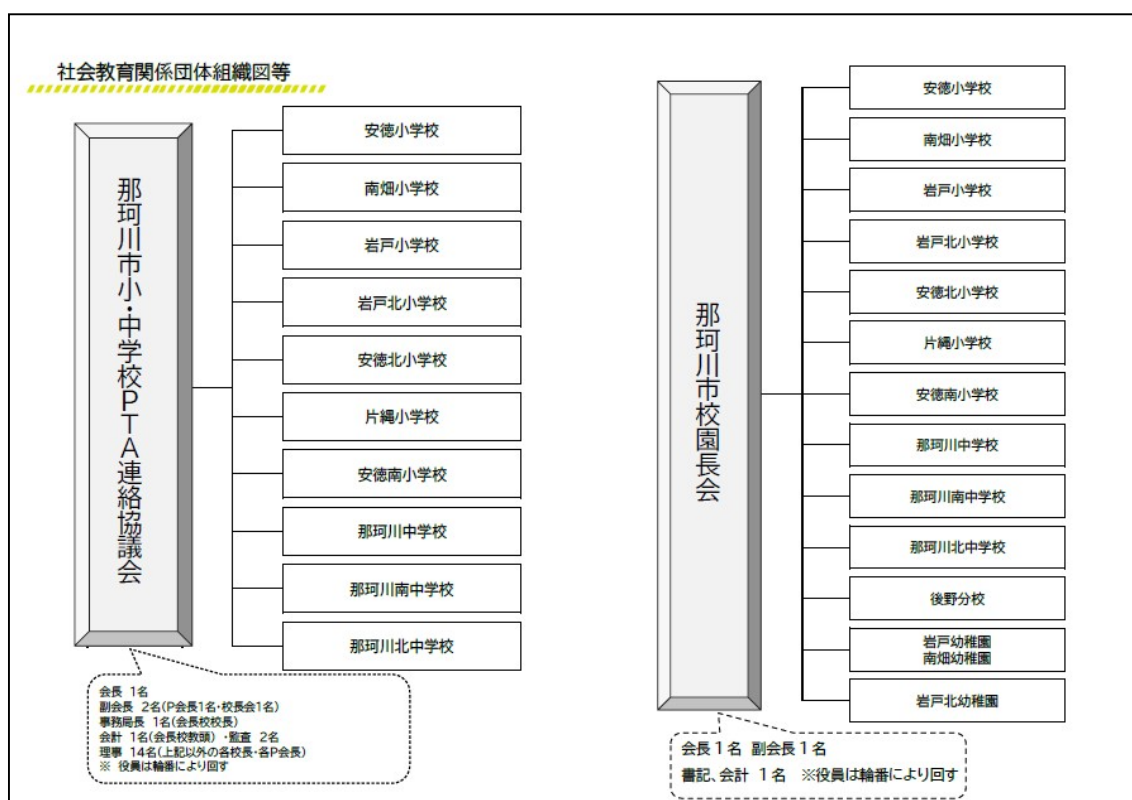
_____ が得意(好き)な

_____ さんを紹介します！



【図2 ノート2ページ～17ページ】

- 18ページ目から26ページ目までは、参考資料として、委員の選出母体である那珂川市小・中学校 PTA 連絡協議会、那珂川市校園長会、那珂川市区公民館連絡協議会、那珂川市子ども育成会連絡協議会、那珂川市小・中学校読書ボランティア連絡会、那珂川市文化協会、那珂川市婦人会、那珂川市体育協会、那珂川市内の放課後子供教室(アンビシャス広場)の組織図を記載し、各団体がどのような構成になっているか確認できるようにしている。



【図3 ノート18ページ～26ページ】

- 27ページ目では、情報収集相手から想定される質問とその質問に対する回答例を記載した。加えて28・29ページでは社会教育に関する用語の説明を載せることで、よりスムーズな情報収集ができるようにしている。このノートは各委員が1冊ずつ持つことで普段の活動の中で社会教育に関する情報収集ができるようにした。

情報収集 Q&A

Q. 社会教育委員って何ですか？

A. 私たちは教育委員会より委嘱を受けた非常勤の地方公務員で、地域で活躍する10の社会教育団体の代表者で構成されています。地域課題や青少年育成など様々な社会教育の課題について調査・研究を行っています。

Q. なぜこのような情報を集めているのですか？

A. 近年、地域社会のつながりや支えあいの希薄化等による地域の教育力の低下や、学校が抱える課題の複雑化・困難化、共働き家庭の増加による家庭の教育力の低下が課題となっています。このような課題をすこしでも解決できるよう、地域の情報をあつめ私たち社会教育委員が、地域のつながり作りを応援します！

Q. どのような団体に構成されているのでしょうか？

A. 以下のような10の団体の代表者で構成されています。
区公民館連絡協議会、婦人会、文化協会、PTA、
校園長会、子ども会育成会連絡協議会、体育協会
小・中学校読書ボランティア連絡会、アンビジャス広場

Q. 集めた情報はどのように使われるのですか？

A. 集めた情報は社会教育委員の会で共有します。共有した情報をもとに、地域の困りごと、学校の困りごとを解決していきます。また、地域と学校をつなぐために活躍する地域学校協働活動推進員と情報を共有することで、子どもたちの体験の場の確保にも努めていきます。

【図4 ノート27ページ】

社会教育関係用語集

- 社会教育 …… 学校の教育課程として行われる教育活動を除く、主に青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動[※]
※ 「組織的な教育活動」とは、活動が計画的である程度の規模と構成をもって展開する営みのこと
- 生涯学習 …… 生活の向上、職業上の能力の向上や自己の充実を目指し、各人が自発的意識に基づいて行うことを基本とし、組織的な学習活動だけでなく個人の学習活動も含むもの

生涯学習

学校教育 幼稚園・小中高校・大学等における教育	家庭教育 基本的な生活習慣の習得、家庭内におけるしつけなど	社会教育 国・県・市・公民館等が行う講座、企業・団体が行う講座など
自己学習 本・インターネット・テレビ等を利用した個人学習		


- 社会教育関係団体 …… 法人であるか否かを問わず、公の支配に属しない団体が社会教育に関する事業を行うことを目的とする団体のこと
- 社会教育主事 …… 社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える人のこと。都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる

- 地域学校協働活動 …… 地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う活動のこと
- 地域学校協働本部 …… 地域学校協働活動推進員を中心として、幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制のこと
- 地域学校協働活動推進員 …… 教育委員会から委嘱され、教育委員会の施策に協力して、地域住民等と学校との情報共有を図るとともに、地域住民等に対する助言などを行うといった、地域と学校をつなぐコーディネーターの役割を果たす人のこと
- 学校運営協議会 …… 地域住民や保護者等の意見を学校運営に反映させる仕組みとして設置されるもの（コミュニティ・スクール）

【図5 ノート28・29ページ】


- また、より効果的な情報収集を目指すために我々が地域情報の収集を行っていることを周知するチラシを作成した。
このチラシには、表に情報収集の趣旨、活用方法、裏に社会教育委員の会に関する説明を載せている。加えて、右端にはチラシを渡した相手が知っている情報を書き込んで各委員へ渡せるよう、「地域人材カード」というシートの簡易版を添付することで、情報収集の輪を広げられる工夫を施した。

**社会教育でつながろう！
みんなで解決！協働マッチング！**



私たち社会教育委員の会では、
市民の皆さんの得意なこと・もの
市民の皆さんの困っていること に関する情報を集めています。

例えば……
「〇〇区の〇〇さんは折り紙とバトミントンが上手ですよ！」
「区で Zoom 会議をやってみたいけど誰か詳しい人いないかな……」
「子ども達向けのあいさつ運動に参加してみたいな」 などなど



集めた情報は、社会教育委員の会で共有し、
困りごとと得意なことをマッチングして解決を目指します！
地域や団体に活躍している人の情報や地域の困りごとなど
ぜひぜひ、社会教育委員にお知らせください！！

※ 集めた個人情報は、社会教育委員の会内でのみ共有し目的外には使用いたしません。
また、マッチングをする際には必ずご本人の承諾を得たうえで実施いたします。

地域人材カード

相手のおなまえ _____

所属(居住区) _____

<得意ジャンル>

スポーツ 歴史 文芸 語学
 美術・工芸 音楽 子育て 情報
 趣味・生活文化 健康 その他

<詳細>

地域人材カード

相手のおなまえ _____

所属(居住区) _____

<得意ジャンル>

スポーツ 歴史 文芸 語学
 美術・工芸 音楽 子育て 情報
 趣味・生活文化 健康 その他

<詳細>


【図6 チラシ(表)】

《情報提供者》

氏名 _____

所属(居住区) _____

連絡先 _____




那珂川市社会教育委員の会
☎ 092-952-2092

《情報提供者》

氏名 _____

所属(居住区) _____

連絡先 _____




那珂川市社会教育委員の会
☎ 092-952-2092

《社会教育委員の会》とは？

社会教育委員の会は、下記 10 の社会教育関係団体の代表者が教育委員会から委嘱を受け、社会教育に関する様々な事柄について調査・研究をする組織です。

区公民館 連絡協議会	婦人会	文化協会	PTA 連絡協議会	子ども会 育成会 連絡協議会
校園長会 (小学校)	校園長会 (中学校)	読書 ボランティア 連絡会	体育協会	アンビニヤス 広場

社会教育に関する
みなさんの声を
行政に届けます！



私たち社会教育委員の会は、行政と住民のみなさんをつなぐパイプ役としての役目も持っています。
地域活動の困りごとはぜひ、社会教育委員の会にご相談ください！

社会教育委員委員長 山崎 貴裕
社会教育委員副委員長 柴田 秀子

《情報提供・問い合わせ先》

那珂川市教育委員会 社会教育課 社会教育担当（中央公民館内）
☎ 092-952-2902（※電話での問い合わせは平日 8:30～17:00 のみ）
✉ shakai@city-nakagawa.fukuoka.jp

【図7 チラシ(裏)】

- 令和元年度の提言書でも述べたように、当市には地域に関する情報を収集する機関がない。そこで、社会教育委員がこのノートを活用し、地域の「得意なこと」と「困っていること」をマッチングさせる情報収集機関の役割を担うことで、地域課題の解決を図るとともに、学校・家庭・地域が連携・協働できる社会教育活動の推進に繋がるのではないかと考えた。
- そこで令和3年度は実際に、各委員が地域住民及び関係団体から情報収集を行い、情報を収集した結果とそこからみえてくる課題について議論した。

(2) 情報収集結果と課題

- 前章で述べたように、市社会教育委員の会は、市内の社会教育団体の代表者で構成されていることから、下記のような各委員の選出母体である団体に関連する人材の情報が集まってきた。

活動分野	活動内容	情報元
健康	看護師、健康・高齢者等に詳しい	文化協会
文化・芸術	歴史、生け花、国際文化、囲碁、ダーツ、短歌、演劇、ひよっこ、書道、絵画、陶芸、革工芸、竹細工、手毬、琴、コーラス、詩吟、ダンス、舞踊、バレエ	文化協会
歴史・料理	歴史ガイドボランティアに所属している料理が得意	体育協会
子育て	幼稚園に勤務経験あり 手あそび、読み聞かせ、育児の悩み相談	体育協会
子育て	幼稚園に勤務経験あり 読み聞かせ、手品が得意	体育協会
スポーツ	バトミントン同好会に所属、バイク・車が好き	体育協会
スポーツ	バトミントン同好会に所属	体育協会
情報	パソコンが得意	体育協会
料理	調理師免許あり、料理が得意	体育協会
健康	元看護師、理学療法士、健康に詳しい	体育協会
スポーツ	プールのインストラクター	体育協会
スポーツ	ニュースポーツ(モルック)を教えられる	体育協会
スポーツ	健康・体力維持のためのストレッチやレクリエーションなど体を動かす楽しさを教えられる	体育協会
語学 趣味	子供英会話講師 Word&Excel のインストラクター経験あり 犬のお世話	体育協会
子育て	保育士	読書ボランティア
スポーツ	手芸、掃除、園芸、バレーボール、簡単な着付け	読書ボランティア
子育て	読み聞かせ、お話し会	読書ボランティア
歴史	戦争語り部	婦人会
生活文化	廃油石鹸づくり、ゴキブリハウ酸団子	婦人会

- 収集した情報は、社会教育委員の会議の中で共有し、人材とコンタクトを取りたい場合は、情報元である各委員を通じて行うことにした。実際に情報共有する中で、地域の高齢者向けサロンで健康のためのレクリエーションを行える人材を探していた委員と委員が収集してきた人材の情報がマッチングし地域の学びの充実への第1歩につなげることができた。
- 一方で、社会教育委員の会議が年5回しか開催されないことから、地域の困りごとが各委員や事務局に寄せられても、課題について委員同士で情報共有し、つながりを作るまでにタイムラグが発生してしまうということが課題として挙げられた。
- また当初の想定では、ノートに収録している協働マッチングシートを所属する団体の会員に配布したり、作成したチラシを配布したりすることで、情報収集をする対象を広めるはずだったが、実際は各委員、個人の知る範囲内での情報にとどまってしまうている。今後はいかに委員からその先へと情報収集の対象を広めていけるかが課題となった。

(3) オンラインチャットツールを活用した情報共有の検討

- まず前項であげた、委員同士の情報共有から課題解決のためのつながりを作るまでのタイムラグという課題を解決するために、オンラインチャットツール「LINE WORKS」の導入について検討を行った。
- オンラインチャットツールを導入することで、いつでもどこでもタイムリーに情報共有ができるようになるため、時間的・空間的制限を超えた新しいつながり作りへとつながることが予想される。
- また、「LINE WORKS」はコミュニケーションツールとして日本国内 8,900 万人が利用する「LINE」と同じ操作性をもちながら、ビジネス向けのツールに特化しているため一般的な「LINE」よりセキュリティ性が高くなっている。
また、「LINE」と「LINE WORKS」はそれぞれ別のアプリであるため、個々のプライベートとは切り離すことが可能である。
- しかしながら、「LINE WORKS」を使用するにはスマートフォンやタブレット端末が必要となる。社会教育委員は2年を任期として委員の交代が発生するため、現委員が対応端末を所持していたとしても、次期委員が対応端末を持っているとは

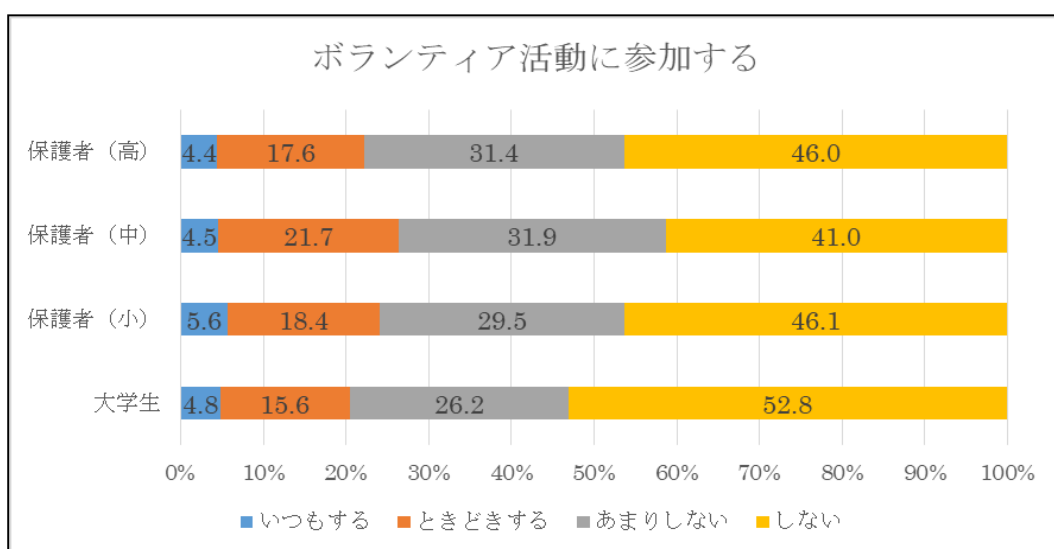
限らない。

また、個々のプライベートを切り離せるとはいえ、個人が所有する端末にアプリケーションを入れなければ使用ができない。そのため、個人の所有端末のセキュリティや委員個人のセキュリティ観念に差があると、情報漏洩が発生する可能性がある。

- 加えて、委員交代が発生した際は、新しい委員は新しくアカウントを作成してもらう必要があり、任期が終了した委員は自ら「LINE WORKS」から退会してもらうという手間が生じる。さらに、チャットツールは情報を即座に共有をできるというメリットがあるものの、情報が流れていきやすいため、情報をまとめ、整理する人員が必要となる。
- このような課題を解決するためには、社会教育委員が「LINE WORKS」による情報共有のための専用端末を持つ必要があると考えられる。
専用端末があれば、委員交代の際には、その端末を新しい委員へ渡せば、次の委員が新しくアカウントを作成・削除する必要はなくなる上に、委員個人の端末にアプリケーションを入れる必要もなくなる。
また、専用端末にセキュリティアプリ等を入れることで、各委員の端末のセキュリティ水準を同一化することができる。加えて、使用に関するルールを定め、情報共有以外での利用を制限することでウイルスが感染する可能性を低くすることができる。
- 「2 現状の研究の方針について」でも述べたように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ICT 機器を活用した新たな学びの可能性が示されたことで、今後、今まで以上に ICT 機器を活用したつながり作りは重要となっていくことが予想される。社会教育委員としても、社会の変化に対応し、オンラインと対面を組み合わせた新たなつながり作りを実現することが求められると考えられる。
- しかし、社会教育委員が情報共有のための専用端末を準備し、セキュリティソフトを導入するためには資金が必要となる。現状の社会教育委員の予算では、委員全員に専用端末を準備するのは難しい。今後は、社会教育委員としてどうすればオンライン上での情報共有を実現できるかについても調査・研究をする必要があると考えられる。

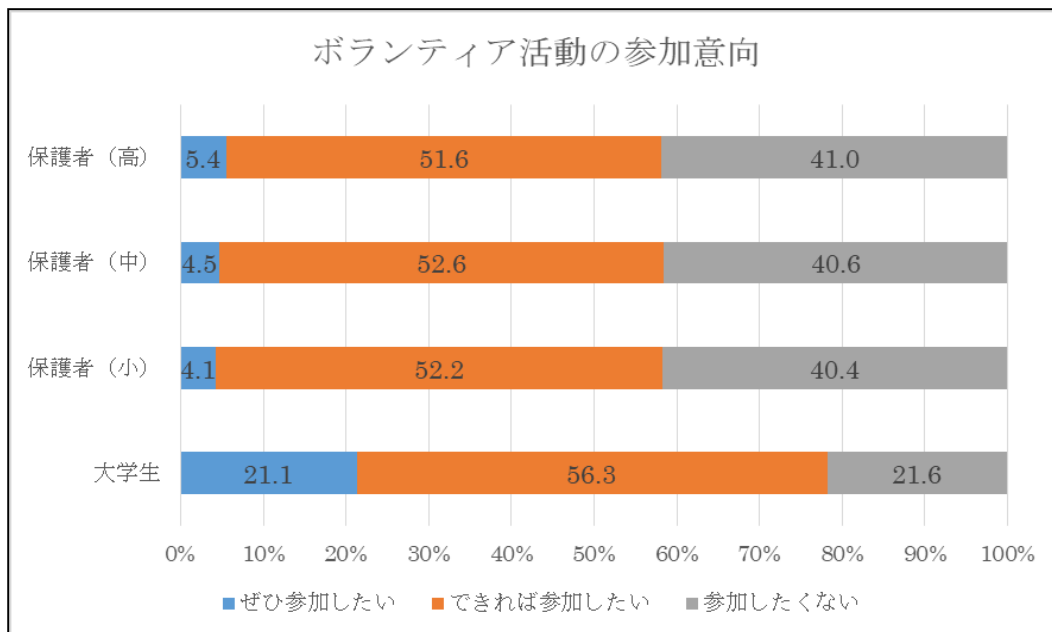
4 地域情報統括の仕組み作りについて

- 青少年の健全育成に関する県民意識等調査報告書(令和3年3月 福岡県)によると、「ボランティア活動に参加する」という質問に対して、「あまりしない」「しない」と答えたのは、大学生で 79.0%、小学生の保護者で 75.6%、中学生の保護者で 72.9%、高校生の保護者で 78.4%となっており、どの年代においても 70%以上がボランティアには参加していないことが明らかになった。(図 8)



【図 8 ボランティア活動に参加する】

- しかしながら、同調査報告書の「ボランティア活動の参加意向」に関する質問項目では、ボランティアに「ぜひ参加したい」「できれば参加した」と回答した人が、大学生で77.4%、小学生の保護者で56.3%、中学生の保護者で57.1%、高校生の保護者で 57.0%となっており、現状ボランティア活動へは参加していないものの参加する意欲は十分あることがわかっている。(図 9)



【図 9 ボランティア活動の参加意向】

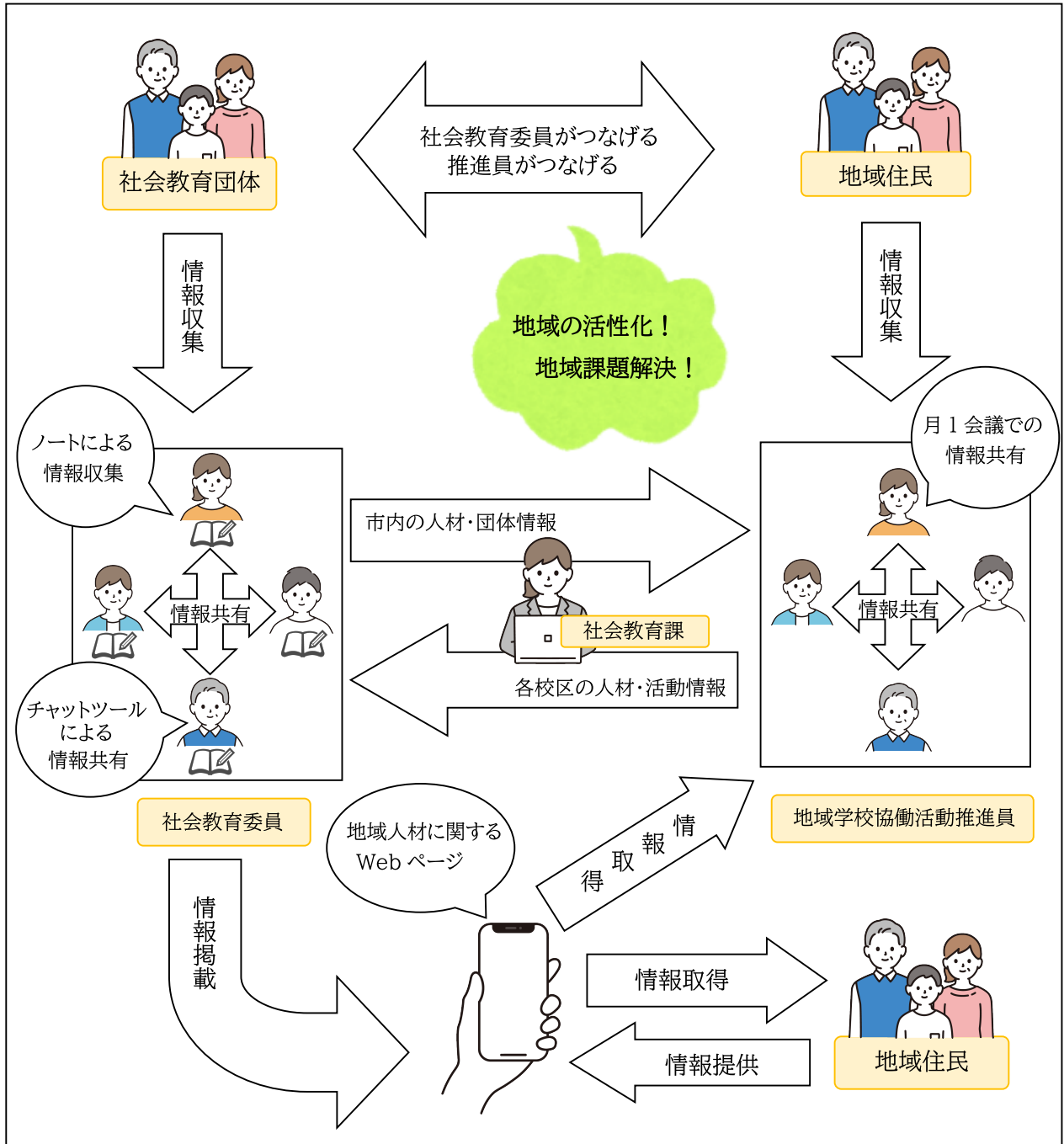
- また、「中央審における議論の整理」では、『自らの趣味や家族と過ごす時間の確保をはじめ、地域の活動への参加やボランティア活動などの社会への貢献も生涯学習の重要な要素である。このうちボランティア活動は、人々の善意と行動で助け合い、社会や地域を良くしていこうという重要なものであり、ボランティア活動に参加する人は人生の満足度が高いというデータもある。』とされており、より質の高い社会教育活動の実現を目指していくためには、「ボランティア活動には参加していないが意欲がある人」が、地域課題の解決や地域の活性化のために、ボランティア活動へ参加するかが重要になってくると考えられる。
- しかしながら、「3 具体的施策(2)-1 情報収集結果と課題」でも述べたように、現状、社会教育委員からその先へと情報収集の枝を伸ばしていけるかが課題であった。このことから、より広い地域住民が生きがいを感じることができ、地域課題解決や地域活性化ができる社会を目指すためにも、より多くの人がつながることのできる仕組みづくりが重要になってくると考えられる。
そこで、那珂川市においてより多くの住民同士を繋げ、より幅広い地域課題の解決を実現するために必要な仕組みについて次の4点をあげる。

- ① 協働マッチングシートの更なる活用と周知
- ② 地域人材情報登録制度の整備
- ③ 地域人材情報の収集及び地域課題解決の支援に関する web ページの作成
- ④ 地域学校協働活動推進員との連携・協働

- まず、①についてだが、先ほど挙げたように情報収集を行う上では、いかに社会教育委員からその先へと情報収集の枝を伸ばしていけるかが重要である。そのために、現在使っているノートに収録している「協働マッチングシート」を、委員だけでなくその他の人でも使いやすいように改善する必要がある。また、情報収集について所属する団体の会員へ広めやすいようにするための工夫も必要になってくると考えられる。
- 次に②についてだが、今回私たちがノートを活用してあつめた情報は、登録制度等は取っていないため、社会教育委員以外の一般市民へ情報の公開はしていない。現在集めている情報について登録制度を取ることで、社会教育委員がどのような人材の情報を持っているかを一般市民へ公開することができ、より幅広い地域課題の解決やつながり作りへと繋がる可能性が高くなると考えられる。
- そして③についてだが、地域人材の登録制度が整備されても、市民が簡単に情報を得られる仕組みが無ければ、地域課題の解決へは繋がらない。そこで、収集した情報がいつでもだれでも見ることができるよう、地域人材情報に関する web ページを作成することで、より地域課題の解決へつなげやすくなると考えられる。また、同時に web ページから人材に関する情報提供を受け付けるフォームを設けることで、社会教育委員だけでは知りえなかった人材の情報についても知ることができるのではないかと考えられる。
- 最後に④については、現在、那珂川市には学校と家庭、家庭と地域、地域と学校を繋げるコーディネーター的役割を担う「地域学校協働活動推進員(以下、「推進員」という。)」が 3 名配置されており、各々が所属する学校周辺の地域人材を生かした地域学校協働活動の実現を目指している。しかしながら、推進員が得られる情報は地域に限定したものが多い。子ども達に、より充実した地域学校協働活動を体験してもらうためには、幅広い地域人材の情報が必要になる。そこで、社会教育委員が収集した情報を推進員へ提供することで、より幅広いつながりによる体験活動の実施や地域課題の解決

が実現するのではないかと考えられる。

- 以上4点を実現することで、図10のような、より多くの住民同士を繋げ、より幅広い地域課題の解決を実現する情報集約体制が実現できるのではないだろうか。この4点については、今後社会教育委員の会においても実現化に向けて、調査・研究を進めて行くこととしたい。



【図10 情報集約体制(図解)】

5 おわりに

- 令和2年から令和3年にかけて、新型コロナウイルスという新たな感染症が全世界的に流行したことで、人と人との直接的な関わり合いが急激に減少し、地域活動は停滞を余儀なくされた。これは、我々社会教育委員にとっても例外ではなく、今までのように地域や学校に出向いて調査をすることが困難になり、各委員が所属する社会教育団体の活動についても停滞していくこととなった。
- 一方で、未曾有のウイルスの流行による人と人とのつながりの分断は、社会教育によるつながりづくりの重要性をより一層感じさせ、これまでの対面による「つながり」と、ICT を活用した「つながり」を組み合わせ、新たなつながりづくりを目指すきっかけとなった。
- このような状況の中で、十分な調査・研究が出来ていない部分もあったが2年間をかけ、市内の社会教育活動・地域活動の情報収集・活用の仕組みについて検討したことで、那珂川市独自の情報収集ツールの作成や、情報集約体制の検討ができたことは、新しいつながりづくりの実現に向けた大きな1歩になったのではないだろうか。
- 未だ新型コロナウイルス感染症の終息の目途はたっていないが、誰一人として取り残されることなく生きがいを感じることでできる社会教育の実現を目指して、今回提言書内で挙げた新たな仕組みについても、引き続き調査・研究を進めていくこととする。

那珂川市社会教育委員 名簿

氏 名	所 属
池田 穂波	那珂川市婦人会
柴田 秀子	那珂川市文化協会
坂井 久美子	那珂川市体育協会
山崎 貴裕	那珂川市区公民館連絡協議会
古賀 あゆみ	那珂川市立小・中学校PTA連絡協議会
渡邊 一正	那珂川市子ども会育成会連絡協議会
森 千春	「EnjoyCoCo!」那珂川北中アンビシャス広場
鬼塚 和代	那珂川市子ども読書活動推進委員会
高橋 明子	那珂川市校園長会 (小学校代表)
中本 克典	那珂川市校園長会 (中学校代表)

任期:令和2年6月1日～令和4年5月30日